

# 3 年 3 組 社会科学学習指導案（公民的分野）

日 時：11 月 17 日 第 5 校時

展開場所： 3 年 3 組 教室

授 業 者： 椎 名 龍

## 1 授業の視点

将来の家計について仲間と意見交換する活動を通じて、支出を配分する際に大切なことを考え、消費生活を向上させていこうとする意欲を持たせることをねらいとする。

## 2 単元名 わたしたちの暮らしと経済 「暮らしと経済」

## 3 単元についての考え方

### （1）単元について

本単元「暮らしと経済」は、学習指導要領〔公民的分野〕の内容（2）「わたしたちと経済」の中項目ア「市場の働きと経済」に該当する部分である。ここでは、「身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させる」ことを主なねらいとしている。その内容の取扱いについては「身近で具体的な事例を取り上げ、個人や企業の経済活動が様々な条件の中での選択を通じて行われるという点に着目させる」とある。経済活動とは、企業が、人々が求める財やサービスを生産し、人々が生活のためにこれらを消費することであるが、その意義は人間の生活の維持・向上にある。

経済活動を個々の生活で見えていくと、それは家計という単位で考えることができる。学習指導要領解説によれば、経済活動とは、「所得、時間、土地、情報などの限られた条件の下において、その価格を考慮しつつ選択を行う」というものである。これを家計で考えると、限られた収入において、それと支出のバランスを考え、各支出項目への配分をどれだけ行うかといった、自分にとって最も有益だと考える選択を通じて人々の生活は成り立っている、ということになる。ところが、人々はそのような合理的な選択が常にできるとは限らない。現代の社会を見てみると、クレジットカードによる買い物やローンによって借金がかさみ、返済不能になって自己破産に陥る人が増加している。また、商品に関する情報が不足していたり、食品偽装のように、虚偽の情報により、それを購入した消費者が不利益をこうむったりする事例が生じている。さらに、インターネットの普及により、オンラインショッピングにおけるトラブルも頻発するなど、消費者の選択が十分に保障されていないのが現状である。

このような状況の中で、消費者政策が「消費者保護から消費者の自立支援」へと変化し、2004 年に成立した消費者基本法の第 7 条で「消費者は自ら進んで、その消費生活に関して、必要な知識を習得し、及びその必要な情報を収集する等自主的かつ合理的に行動するよう努めなければならない」とされている。そして、学習指導要領解説には、「消費者の保護」について「自らの利益の擁護及び増進のために自立した消費者となるように努めなければならない」とあることから、消費者教育においては、消費者政策が求める、自ら進んで知識や情報を得て、自主的・合理的に行動する「自立した消費者」を育てることが求められている。本単元では以上のような視点に立って、生徒に商品やサービスに関する様々な知識や情報をもとに、自分にとって最も有益なものを選択していくことの大切さや、クレジットカードの仕組みやそれを扱う際の注意点を理解させ、消費生活を向上させようという態度を育てることをねらいとして学習を進めていきたい。

本単元は 4 時間構成で、1 時間目「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」で経営者の視点から消費者の消費行動を考えることで、経済への関心を持たせ、経済活動が、人々の生活の維持・向上のために、様々な条件の中で選択を通じて行われている活動であることを理解させる。2 時間目「わたしたちの消費生活」では、家計を題材として取り上げる。ここでは、収入を得る方法について学習し、消費者が限られた収入の範囲で消費や貯蓄の配分を行っていることに気づかせ、支出を配分する際に大切なことを考える活動を通じて、消費生活を向上させていこうという意欲を持たせる。3 時間目「消費

者の権利」で、悪徳商法や契約上のトラブル、クレジットカードによる多重債務の問題など、今まさに生じている消費者問題の概要を知り、クーリングオフ制度や製造物責任法、消費者基本法など消費者保護のための取り組みと消費者の権利について理解させる。4時間目「消費生活を支える流通」で、様々な商品の流通経路について学習し、現代の経済のしくみの中で、消費生活の背景にある流通の役割を理解させ、それが商品の選択に与えている影響について考えさせたい。

本時の授業は単元の2時間目にあたり、「わたしたちの消費生活」を扱う。ここでは「家計」を題材として取り上げる。それを取り上げる理由は、生徒にとって最も身近な経済活動が消費であり、それは経済の最小単位である「家計」とつながってくるからである。現在、生徒は中学生の立場として保護者のもとで生活しているが、これから進路選択・決定をし、ゆくゆくは就職をして、自ら働いて得た収入で生活をするようになる。授業では、将来、生徒が大学を卒業して就職をし、働いて収入を得るようになったという設定で、どのように支出を配分し、家計を設計していくかを考えさせたい。こうして将来の「家計」を取り上げることで、経済を、自分にとってより身近なものとしてとらえさせることができる。学習形態としては、まず一斉授業で収入や支出といった家計に関する知識を整理したうえで、資料をもとに個人で将来の「家計」の支出の配分を考えさせる。そして小グループで、「なぜそのように支出を配分したか」というテーマでの意見交換を通じて、支出の配分を考える視野を広げ、考えを深めさせたい。その後、実際にどれくらいの支出の配分になるのかという具体例と、自分が考えた家計を比較させたり、予定外の出費に備えてどうするか考えさせたりする活動を通じて、支出を配分するうえで大切なことを考えさせ、自分の消費生活を向上させようとする意欲を持たせることに結びつけていきたいと考える。そして最後に、貯蓄がほとんどない場合に予定外の出費があった時の対処の仕方を問いかけ、次の時間の「消費者問題」のテーマの一つである、クレジットカードのキャッシングによる多重債務の話題につなげていきたい。

## （２）市教研の研究主題との関わりから

市教研の研究主題では、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うために、次の4つの視点を挙げている。①目指す子どもの姿、習得すべき知識・概念の明確化。②追求意欲を高め、社会認識が高まり、参画への意識が育つ教材の開発。③主体的に学び、参画への意識が高まる学習過程の工夫。④社会認識の深まりや社会参画の資質や能力を見取る評価の工夫、である。

本単元ではまず、視点①の目指す子どもの姿として、商品に関する様々な情報を積極的に集め、適切な選択を行うことによって、消費生活を向上させていこうという意欲を持つことができる生徒の育成を目指す。視点②についてはコンビニエンスストアや家計などといった、生徒にとって身近な題材を取り上げることで切実感や臨場感をもって経済をとらえることで、追求意欲や社会認識の向上につなげていく。そして、そのための方法として、視点③にあるように題材に関して自分の考えを持ち、それをもとに仲間と意見交換したものを全体で共有し、自分の考えを再構成していくという学習の流れを積極的に設けていく。視点④に示されている評価については、生徒の考えが書かれたワークシートや、話し合い活動の観察などを通じて、社会認識の深まりや、社会参画への意識の高まりの過程を評価していきたい。

## （３）本校の研究主題との関わりから

本校社会科部会の研究主題にあるように、調べ、考え、表現する力を育てる指導の工夫に重点をおいて指導を組み立てていく。そのために視点（２）にあるように、学習内容に適した学習形態を工夫する。具体的には、学習課題の解決のために資料を読み取るなどして、まず自分自身の考えを持つ段階では個別学習の形態をとる。続いて、思考を広げ、深めていく段階では4人グループを基本として、話し合い活動を行っていく。そして再び、個別学習に戻ってグループ学習で得た様々な視点を生かして自分自身の考えを再構成するという学習場面を設定していく。そうすることで、多面的・多角的に考え、判断し、表現できる生徒が育成できると考える。

#### 4 生徒の実態（省略します）

#### 5 指導目標

- （１）経済への関心を高め、「自立した消費者」を目指す意欲を持たせる。【関心・意欲・態度】
- （２）経済活動における選択や、消費者の権利と自立、流通の役割について多面的・多角的に考察させる。【思考・判断・表現】
- （３）消費生活に関する課題や消費者問題などについて、さまざまな資料を読み取り、その解決策について自分の考えをまとめさせる。【技能】
- （４）経済活動の意義や、消費者の権利と契約、消費者問題、流通の役割について理解させる。【知識・理解】

#### 6 指導計画（４時間扱い）

時	学習内容と活動	指導上の配慮事項と評価（◇）
1	○コンビニエンスストアの経営者になってみよう	・コンビニエンスストアの立地について、様々な視点から考えるよう促す。 ◇シミュレーションを通して、経済への興味・関心を高めている。（関心・意欲・態度） ◇どの立地で出店したいか様々な視点から考え、経済を学ぶ視点を理解している。（知識・理解）
2 (本時)	○私たちの消費生活 ・収入と支出 ・将来の家計を考える	・グループでの意見交換を通じて、支出の配分について大切なことを考えさせる。 ◇限られた収入の中で、よりよい支出の配分について考え、消費生活を向上させようとする意欲を高めている。（関心・意欲・態度） ◇仲間との意見交換を通じて、家計における支出について、自分の考えを深めている。（思考・判断・表現）
3	○消費者の権利 ・あふれる商品 ・クレジットカードによる問題 ・消費者問題と行政の対応 ・自立した消費者	・消費者の権利と保護について、具体的な被害例や対応策などを通して考えさせる。 ◇消費者の権利とその保護の取り組みについて、多面的・多角的に考えている。（思考・判断・表現） ◇消費者問題と消費者の権利、消費者行政の役割について理解している。（知識・理解）
4	○消費生活を支える流通 ・商品が手元に届くまで ・商業の役割 ・流通の合理化	・流通について、生産者、消費者の立場から考えさせる。 ◇身近な商品の流通経路について積極的に調べている。（関心・意欲・態度） ◇流通の役割や合理化の取り組みについて、多面的に考えている。（思考・判断・表現）

## 7 本時の指導

(1) 題材名 わたしたちの消費生活

(2) 目 標

①教科の観点から

限られた収入の中で、支出の配分について大切なことを考えることを通じて、消費生活を向上させようとする意欲を持つことができる。(関心・意欲・態度)

②キャリア教育の観点から

仲間との意見交換を通じて、家計における支出について自分の考えを深めることができる。

(思考・判断・表現)

(3) 本時の展開

時配	学習内容と活動	指導上の配慮事項と評価 (◇◆)
導入 10 分	<p>○課題の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭ではどんなことにお金を使っているか考え、発表する。 (食費、住居費、被服・履物費など)</li> <li>・どうやってお金を手に入れているか考え、発表する。(勤労所得、事業所得、財産所得)</li> <li>・収入と支出の活動を通して、生活を維持していくことを家計ということを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が発表した支出、収入の内容を整理し、カードを黒板に提示していきながら説明する</li> <li>・自分の家はどのようにして収入を得ているか考えさせ、収入には限りがあることを説明する。</li> <li>・家計という言葉の意味を説明する。</li> </ul>
展開  15 分	<p>○学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           自分の将来の家計について、支出の配分を考えよう         </div> <p>○大学を卒業して就職をし、20 万円の収入でアパートを借りて一人暮らしをするという設定で、将来の家計について、支出の配分を各自で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20 万円の収入のうち、手取り金額が 16 万円という設定で、支出の配分を考えていく。</li> <li>・ワークシートの支出項目欄に金額を記入していく。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>支出項目</b></p> <p>住居費、食料費、光熱・水道費、被服・はきもの費、交通・通信費、教養・娯楽費、医療費</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支出の配分の理由を記入する。</li> </ul> <p>《予想される生徒の考え》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食材は安い外国産品よりも、安心できる国産品や無農薬産品を使用したいので、食費が高くなるのは仕方がない。</li> <li>・食材の産地にはこだわらず、食費はできるだけ安くおさえたい。</li> <li>・服にはあまりこだわらないので、被服・はきもの費は少なくした。</li> <li>・健康には自信があるので、保健医療費はかからないだろう。その分、娯楽費に回そう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を黒板に提示する</li> <li>・ワークシートを配布する</li> <li>・収入のうち、使うことができる金額は、そこから税金や社会保険料を差し引いた手取り金額であることを説明する。</li> <li>・住居費については、新検見川駅周辺に住むという設定で、駅からの距離が違う A・B・C の 3 つの選択肢の中から選ばせる。</li> <li>・生徒の多様な考えを引き出すために、補助発問をする。</li> </ul> <p>《発問例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ食品でも国産と外国産では値段が違うのはなぜだろう。考えなくてはいけないのは値段だけかな？</li> <li>・健康な人でも突然の病気やケガで病院に行くことはないだろうか？</li> </ul>

10 分	○4人グループで「支出を配分した理由」をテーマに意見交換を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4人グループになるように指示する。</li> <li>・仲間の支出内容について、積極的に質問するように呼びかける。</li> <li>・ワークシートのメモ欄に仲間の考えを記入させる。</li> </ul>
5 分	<p>○実際には、どれくらいの支出の配分になるのか、一人暮らしの世帯の平均支出の金額と自分が設計した数字を比較し、感じたことを発表する。</p> <p>《予想される生徒の反応》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食費が平均と比べて少なすぎる。これで本当に生活していけるかな。</li> <li>・自分の教養・娯楽費を削って貯蓄に回したほうがよさそうだ。</li> <li>・急なケガや病気のことも考えて医療費も確保しておかないといけないな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆仲間と積極的に意見交換し、自分の考えを深めることができる。(観察・ワークシート)</li> <li>・一人暮らしの世帯の平均支出が示されたプリントを配布し、自分の支出と比較させる。</li> </ul>
まとめ 10 分	<p>○生活していく上で予定外の支出があることや、そのためにクレジットカードのキャッシングを重ねて借金を重ねてしまい、生活が破綻してしまうといった内容の教師の話を聴き、支出を配分する際に大切だと思うことについて考え、ワークシートに記入し、発表する。</p> <p>(3名程度)</p> <p>《予想される生徒の答え》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収入とのバランスを考えること</li> <li>・一部の項目を増やしすぎて、他の項目が足りなくなないようにすること</li> <li>・将来を見すえて貯蓄をしていくこと など</li> </ul> <p>○ワークシートを提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収入と支出のバランスを保っていくことが大切だが、現実的には、友人の結婚式など予定外の支出や将来に備えて貯蓄をしていくことの必要性を伝える。</li> <li>・貯蓄がない場合、急な出費があったらどうするか、と生徒に問いかけ、クレジットカードのキャッシングの話題を出し、次回につなげるようにする。</li> </ul> <p>◇支出の配分について大切なことを考えることを通じて、消費生活を向上させようとする意欲を持つことができる。(ワークシート)</p>

◇教科の観点からの評価      ◆キャリア教育の観点からの評価

#### (4) 板書計画

自分の将来の家計について、  
支出の配分を考えよう

##### 《支出》

(消費支出)

住居費

食料費

水道・光熱費

被服・履物費

交通・通信費

保健医療費

教養・娯楽費

税金・社会保険料

##### 《収入》

勤労所得

事業所得

財産所得